



歯の『仕組みと役割』を知って、健康維持！

城里町歯科医師会

皆さんは、口の中で歯がどのような仕組みになっているかご存じでしょうか。歯は、口を開けた時に見える、歯ぐきから出ている「歯冠部」と、歯ぐきの中に隠れている「歯根部」に分けられます。今回は、歯の周りを支えている歯根部と、その中でも重要な歯根膜について解説していきます。

歯髄

歯の中を通っている神経組織。痛みなどの刺激を感じ脳に伝えます。また、血管を含み、歯に栄養を補給しています。

歯肉

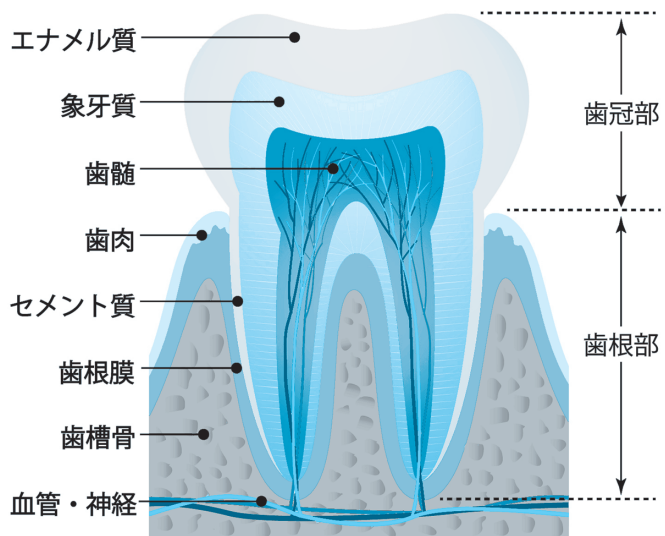
骨を覆っている粘膜の組織。一般的に歯ぐきと呼ばれている部分です。健康な歯肉はピンク色で引き締まっています。

セメント質

歯根の表面を覆っている組織。歯根膜によって歯槽骨と結合しています。

歯槽骨

顎骨と歯を結ぶ、歯が埋まっている骨の部分。歯の根を支えるために必要不可欠な部分です。



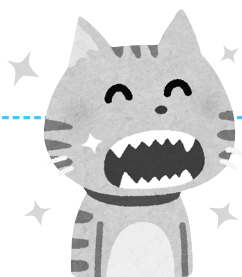
歯根膜

歯槽骨と歯を繋いでいる薄い膜で、線維性が集まった組織。0.3mmほどの厚みしかありませんが、大切な役割を担っています。

- ①歯を支える歯槽骨と歯を強く結びつけています。
- ②食べ物などを歯で噛んだ時、硬さや感触、刺激を感知して脳に伝えます。このセンサーのような働きにより、硬いものや柔らかいものを食べる時に噛む力をコントロールして、噛みごたえや食感を感じることができます。
- ③歯根膜により歯がハンモックに支えられているような格好になっていて、歯で硬いものを噛んだ時にわずかに沈んだり揺れたりして、クッションの役割をしています。歯に加わる強い力を吸収・分散させることで、歯や骨を保護しています。

歯の治療時には、歯根膜の空隙を境界として歯槽骨と歯を分離して抜歯が行われたり、レントゲン写真に写る歯根膜の空隙の状態からさまざまな情報を得たりして、適切な治療を行います。

歯根膜がなくなったら…歯根膜は、歯が抜けると一緒に取れてしまいます。入れ歯やインプラントで抜けた歯を補ったとしても、歯根膜は元に戻りません。また、虫歯や歯周病、睡眠中の歯ぎしりを原因として歯根膜が炎症を起こすことがあります。炎症によって組織が破壊されてしまうと、歯を骨にしっかりと固定できなくなり、歯がぐらぐらと動いて、きちんと噛むことができなくなってしまいます。



歯の健康を維持し、よく噛んで食事ができることは、皆さんがいいきと元気な生活を送ることに深く関わります。

大切な歯を守るために、日頃から丁寧に歯を磨いて口の中を清潔に保ち、定期的に歯科医院で検診を受けましょう。